

# (60) 栃木県日光市の南沢(みなみざわ)鉦山跡 一追記

2020年5月

前述の木戸ヶ沢鉦山に近接しており、栃木県日光市藤原町自由ヶ丘地区にある。鉦山跡地を含んだ一帯は広い「憩いの森公園」となっている。当然、駐車場、トイレ完備である。車横付けの鉦山跡である。



図1 今市から121号線を北上する。東武鬼怒川線の小佐越駅の手前で、鬼怒川左岸にある「憩いの森公園」に入る。右側の赤丸あたりに南沢鉦山跡がある。対岸の赤丸は「木戸ガ沢鉦山跡」である。

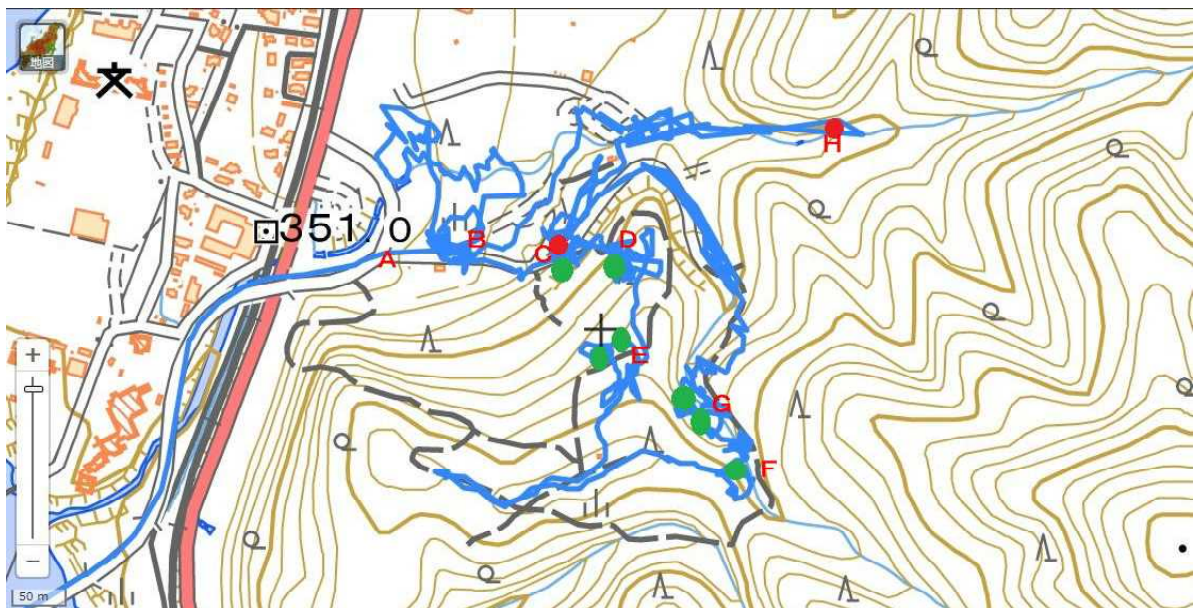


図2 図1の部分拡大図。A点が「憩いの森公園」への入口。B点は駐車場。C点、H点付近の赤丸には鉦山跡らしい物。黄緑丸は坑口跡などである。黒破線はハイキングコースである。つまり、坑口跡はほぼハイキングコース上にあることが分かる。



## 鉾山跡写真



写真1 A点からB点の方を見ている。  
前方の側道に入って直ぐ左側にも自由駐  
車場がある。



写真2 B点付近。南沢鉾山跡を含んだ  
全域が広い公園地となっている。図2中  
の黒い破線は遊歩道を表記している。



写真3 C点付近。「南沢鉾山跡」の古  
びた看板が未だ生きていた。既報の写真  
3と比較すると、10年の歳月が感じら  
れる。



写真4 D点である。遊歩道の脇にあつ  
た閉塞された坑口跡。既報の写真5が1  
0年前の様子。





写真5 写真4の坑口跡の内部を、隙間からのぞき込んでの一葉。



写真6 E点付近。遊歩道脇の2カ所に大きな「陥没跡」があった。既報の地形図3中の2つの黒丸の記入位置に間違いがあった。ここで、訂正する。



写真7 F点付近。尾根筋を下り、沢に降りたところに、木製の橋と坑口跡があった。既報の写真7と同じ所。



写真8 写真7で示している坑口を入口から覗いた一葉。





写真 9 G 点付近。歩道の対岸に数カ所の坑口跡があった。



写真 10 H 点付近。歩道の行き止まり当たりの沢の右岸にあった、「火薬庫跡」と思われる場所。入口から進んで、左右に空き地があり、間には土盛りがある。山中での火薬倉庫の跡らしい様相をしている。



## (60) 南沢(みなみざわ)鉾山跡

前述の木戸ヶ沢鉾山に近接しており、栃木県日光市藤原町自由ヶ丘地区にある。参考文献(1)によれば、「・・・木戸ヶ沢地区と同じく流紋岩中の鉾脈・・・。鉾石は含金黄銅鉾石英脈で、これに黄鉄鉾、少量の閃亜鉛鉾、方鉛鉾を伴う。・・・」

鬼怒川を真ん中にして、(59)木戸ヶ沢鉾山跡の東方にある。北上してきた121号線を木戸ヶ沢鉾山に行くために、十字路を左折したが、この十字路を今度は右折する。直ぐに鬼怒川を渡り、東武鬼怒川線を渡ると、道路は大きく左にカーブしている。このカーブに入るあたりに、前方に直進している道がある。「憩いの森」への進入路である。入ると直ぐ左側に駐車場がある。ここに車を止めよう。



地形図1 赤丸が鉾山施設跡。赤丸の所には「南沢鉾山跡」の案内看板が立っている。また、近傍の駐車場の傍には鉾石搬出用のコンクリート施設が遺跡として残っている。緑色が坑口跡。

地図 国土地理院2万5千分の1地形図「鬼怒川温泉」

調査日 2010年4月、その他の日

参考文献

(1)「日本地方鉾床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。

以下に昭和27年発行の5万分の一「日光」の地形図の一部分を示す。「こさごえ」駅の南東方向直ぐ近くに「鉾山記号 どう」がある。現在の地形図とこの旧地形図を対照してみる。現在「憩いの森」となっている公園施設は、旧南沢鉾山施設跡に設置されたようである。





地形図2 昭和27年5月発行5万分の一「日光」より

「こさごえ」駅の東南の位置に南沢鉦山の位置「鉦山記号 どう」が明記されている。現在（2010年）では、この辺り一帯が憩いの森公園となっている。旧鉦山敷地全体を公園にしたようである。当時は鉦山は広い地域を占めていたようである。地形図中の鉦山記号（2つのツルハシの組み合わせ）の位置は鉦山施設の中心部を示しているようである。

## 鉦山跡写真



写真1

駐車場の東端に、古いコンクリートの建造物があった。形状からすると鉦石搬出施設と思われる。この辺り一帯が憩いの森公園となっている。





写真 2

公園の一角に「南沢鉦山跡」の道標が立っていた。道標の後の斜面には林道がある。



写真 3

その林道に行って、林道から斜面を見ると。坑道跡らしい箇所があった。写真の中央の所である。林道の直ぐ傍。



写真 4

上の写真を撮影したところから左側に、ハイキングコース道がある。この道を上っていく。





写真 5

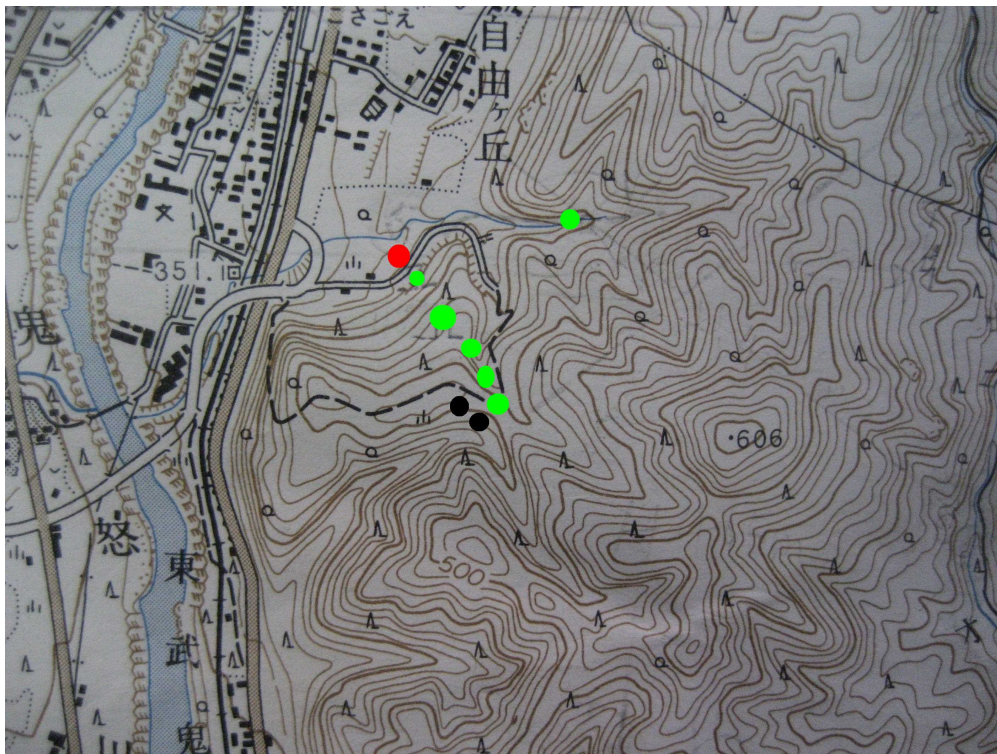
ハイキングコースの右側に、立派に閉塞された坑口跡があった。

## 採集鉱物写真

沢を歩いていると、地域の人に出会った。沢山の坑口があったそうである。地形図に書き込んだ坑口跡は、それらの一部なのであろう。鉱石は沢を探すことで採集した。結構な方鉛鉱、黄銅鉱の塊幾つか採集した。ごくありふれたものなので、写真は掲載しない。なので、沢で鉱石の転石を探すことは十分にできよう。旧地形図からすると、公園地域全体が南沢鉱山領域であったようである。公園化により、ズリなどその他は綺麗に処分されてしまったようである。ただ鉱石搬出コンクリート施設だけは残された。

## 追記

写真 1 で示している駐車場に車を止めて、林道（車通行可）を徒歩での登っていった。その内に林道は行き止まりとなる。沢に沿って遊歩道が整備されている。これを歩いて行き、幾つかの坑口跡、陥没跡を見つけた。途中鉱石の欠片らしきものは落ちていたが、それ程なものではなかったので未採集。また、ズリの跡らしいものは見つけれなかった。



地形図 3 地形図 1 の部分拡大。再探査で見つけた幾つかの坑口跡などを追加記入している。  
●は 2 つの大きな陥没跡。





写真 5

遊歩道の途中で、左岸にあった坑口跡。



写真 7

これも遊歩道の途中にあった。右側に丸太を敷いた階段状の遊歩道が見えている。



写真 8

遊歩道の途中にあった大きな囲い。2つあった。まん中は大きく陥没していた。縦穴の跡なのか、下の坑道の陥没なのかはわからない。